

P1-001

幼児期におけるレジリエンスの育成に関する意識調査

—保育者と保育者志望学生を対象として—

劉 梅

広島大学人間社会科学部研究科

1. 研究目的

本研究では、保育者が幼児のレジリエンス (Resilience) に関する理解及びレジリエンスを育成するためのかかわり方を明らかにし、それらに影響する要因を検討することを目的としている。

2. 研究方法

本研究では、Google フォームを通じて質問紙調査を行い、SPSS を用いて統計分析を行った。調査対象は、保育施設 (9 園) に勤めている保育者と保育者養成学校 (3 校) に在学している学生である。回答数は保育者が 128 部、保育者志望学生が 83 部であった。

3. 研究結果

レジリエンスに含まれる資質能力として「ソーシャル・スキル」(88.3%)と「問題解決能力」(59.4%)の選択率が高いのに対し、「根気強さ」(14.1%)、「知的スキル」(8.6%)と「衝動のコントロール」(2.3%)の選択率が低かった。レジリエンスを育成するためのかかわり方として「家庭と園が情報提供や連携を行う」(85.9%)「幼児のトラブルなどをきっかけとしてかかわる」(77.3%)を選択した保育者が多く、「意図的に絵本を選択する」や木登り、冒険活動など特別な遊びを工夫していることが少なかった。

保育者はレジリエンスの育成を重視する程度が保育者の年齢 ($r = 0.309, p < 0.001$)と保育経験年数 ($r = 0.243, p < 0.01$)と正の相関が見られ、性別と担当しているクラスとの相関関係が見られなかった。幼児のレジリエンスの判断する視点それぞれが保育者・保育者志望学生とクロス集計を行った結果として、保育者は「自己調整」(友だちから間違いなどを指摘された時に、状況に応じて自分の行動を変えることができる・一つの遊びに集中して最後までやり遂げる)と、保育者志望学生は「傷つきにくさ」(絵や作品を作るとき他の子より遅れたり、うまくできなかったりしても気にしない)との間に $p < 0.01$ であった。つまり、「現場保育経験の有無」によってレジリエンスに関する理解が影響されていると明らかにされた。

4. 考察

保育者は日々の保育において社会性と問題解決能力以外の幼児のレジリエンスの資質能力も重視し、レジリエンスを育成するための遊びや活動を工夫する必要があると示唆された。また、保育経験がレジリエンスの育成を重視する程度とレジリエンスに関する理解に影響する重要な要因であると考えられる。

P1-002

おむつによる締め付けと乳幼児の睡眠との関係

渡辺 珠巳¹、福田 優子¹、奥田 泰之¹、
谷池 雅子²、毛利 育子²¹花王株式会社、²大阪大学大学院

【目的】

我々は、乳幼児の睡眠の質を高め、健やかな成長に貢献するべく、乳幼児の睡眠の基礎研究および睡眠に対して良いおむつの開発を目指している。一般的に、装着者は尿や便のモレを避けるためにおむつをきつく留めたり、ウエスト装着応力(締め付け)が大きいおむつを選んだりすることがある。一方で、低月齢の乳幼児は主に腹式呼吸を行っており、ウエストを締め付けると睡眠に対して悪影響を与える可能性が考えられる。今回、おむつのウエスト装着応力が異なるパンツタイプのおむつ装着時の睡眠状態を比較する試験を行い、おむつによる締め付けと乳幼児の睡眠との関係について予備的に検討した。本試験は、花王株式会社ヒト試験研究倫理委員会の承認を受けて実施した。

【測定方法】

被験者は、昼夜に対応した覚醒睡眠リズムが確立した生後 6 ~ 12 か月の低月齢の乳幼児 14 人とし、デバイスの装着・計測を母親に依頼し自宅で試験を実施した。乳幼児は、装着応力の小さいおむつ A、装着応力の大きいおむつ B をそれぞれ平日 5 日間の夜のみ使用し、そのうち月、水、金の夜に心拍計、活動量計、温湿度計を装着し、それぞれ心拍数、活動量、おむつへの排尿を計測した。そのほか、養育者に、睡眠日誌の記入、使用後のおむつ重量の計測、おむつ痕の写真撮影、身体計測、寝室の温湿度計測を依頼した。

【結果】

試験期間中に体調不良があった 3 人を除き、11 人 (男児 4 人、女児 7 人)を対象に解析を行った。おむつ A 着用時に比べ、おむつ B では中途覚醒時を除いた夜間睡眠中の「平均活動量」と、「1 時間当たりの活動量」が有意に大きかった。また、おむつ A 着用時と比べ、おむつ B では夜間の睡眠時間 (中途覚醒を含む入眠から起床までの時間) が長い傾向があった。おむつ A 着用時に睡眠時間が長い被験者 3 人ではその差は 10 分未満であったのに対して、おむつ B 着用時に睡眠時間が長い被験者では、8 人中 4 人でおむつ B 着用時の睡眠時間の方が 25 分以上長かった。

【考察】

ウエストの装着応力が大きいおむつの着用は、乳幼児の夜間睡眠中の動きを増やし睡眠時間を延長させる可能性が示唆された。赤ちゃんが質の良い睡眠をとるためには、おむつや衣服で体を締めつけないことが重要であることが確認された。